

まえがき

彦根市教育委員会

教育長

善住 喜太郎

彦根市および彦根市教育委員会では、子どもたちが文化芸術活動を通して自己表現できる機会を提供するとともに、日ごろから文化芸術活動に熱心に取り組む子どもたちの努力と榮譽を称えることにより、将来の文化芸術活動を担う次世代の人材を育成することを目的とした『ひこね子ども文化芸術奨励事業』を、平成二十二年度から実施しております。

その事業の一つとして、日本語の持つ言葉本来の美しさを感じることで、子どもたちの豊かな表現力（考える力・書く力・伝える力）を育むことを目的とした「第八回 ひこね子ども文芸作品」を実施し、俳句、川柳、短歌、詩の作品を募集いたしました。

今年度は、延べ3,621人の子どもたちから、5,708点もの作品が寄せられました。昨年度と比較して、応募者数ならびに応募点数が減少したことは誠に残念ではありますが、素晴らしい作品を多数応募いただきましたことを大変うれしく思っております。

皆さんの作品を拝見しておりますと、感性や表現に富んだ作品が多く、中には大人でも思いつかない語句やフレーズが駆使されたレベルの高い作品もありました。どの作品も皆さんの生活に身近なものが題材とされていましたが、他のお友だちと同じ題材でも、全くと言って同じ作品は無かったように思います。これは、皆さん一人一人が持つ「個性」が作品の中に表れているからに違いありません。

皆さんが通われている学校のような集団生活の中では、決められたルールに基づき、他の人と一緒に行動する機会が必然的に多くなるため、自分の「個性」を出すことのためにためらいを持ったり、難しく感じたりしている方もおられることでしょう。しかし、物事の感じ方や捉え方は人それぞれです。集団の中でも自分の考えや意見を持ち、それを伝える力は、将来必ず必要となってきます。

今回の「ひこね子ども文芸作品」で入賞された作品は、作者の「個性」が特に表現されていたという印象を受けました。言葉に自分ならではのオリジナリティを加えることは簡単なことではありませんし、文字数の制限がある俳句や川柳、短歌ではなおさら難しいと思います。それが文芸作品を創作する面白さや醍醐味であり、また同時に、皆さん「個性」が最も輝く場面に他なりません。

今回の創作活動を通じて、皆さんには今後、日々の生活の中で、自分自身の「個性」を臆することなくどんどん発揮していただきますとともに、文芸活動にも今後より一層励んでいただくことを大いに期待しております。

最後になりましたが、彦根文芸協会の皆様には作品の審査をはじめ、夏休みには「夏休み文芸ワークショップ」の講師をお引き受けいただくなど、彦根市における新たな文芸活動の人材育成のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

これからも、明日の彦根を担う子どもたちの健やかな成長を、温かな目で見守っていただきますよう、関係各位の皆様にお願ひ申し上げます。発刊に寄せる言葉とさせていただきます。

平成三十年 三月